ペアデータを用いた祖父母・孫機能と祖父母・孫関係の関連

柳瀬 侑

本研究では、祖父母と孫とのペアデータを用いて、祖父母と孫両方の立場から、相互の関係満足度の高さを規定する要因を明らかにすることと、同一家庭内から見た祖父母-孫類型を捉えることを目的とした。関係満足度の高さを規定する要因として、田畑・星野・佐藤・坪井・橋本・遠藤(1996)が作成した孫・祖父母関係評価尺度の五つの機能(存在受容、日常的・情緒的援助、時間的展望促進、世代継承性促進、道具的・情緒的援助)を取り上げた。尚、「存在受容」は、祖父母(孫)がいるだけで安心できる等、「日常的・情緒的援助」は、祖父母(孫)が相手のことを理解しようとする等、「時間的展望促進」は、祖父母(孫)の姿を通して過去や未来に思いを馳せる等、「世代継承性促進」は、祖父母(孫)の姿を通して先祖からの繋がりを実感する等、「道具的・情緒的援助」は、祖父母(孫)が相手の用事に付き添う等である。①祖父母の立場では、世代継承性促進が孫との関係満足度に正の影響を与え、②孫の立場では、存在受容及び時間的展望促進が祖父母との関係満足度に正の影響を与えるという仮説を検証した。

本調査は、大阪府内に通う大学生とその祖父母一名を対象に、質問紙調査を行った。調査内容は、調査協力者の基本属性と、孫・祖父母関係評価尺度(孫版、祖父母版)、及び孫に対する、または祖父母に対する関係満足度だった。分析対象者は大学生、祖父母とも52名で、大学生は男性21名、女性32名で平均年齢は21.3歳(SD=1.6)であり、祖父母は男性13名、女性39名で平均年齢は78.4歳(SD=4.1)だった。

ペアワイズ相関分析の結果,孫-祖父母関係評価尺度(祖父母版)と孫-祖父母関係評価尺度(孫版)の日常的・情緒的援助 (r=-.62, p<.01),世代継承性促進 (r=-.48, p<.01),道具的・情緒的援助 (r=-.48, p<.01),中程度の強さの負の相関が確認された。この結果から,祖父母が求める機能と孫が求める機能は,同一家庭内で一致していないことが分かった。祖父母と孫の両者が期待する機能に認知的相違が見られることについて,世代継承性促進については祖父母と孫の年齢の差による世代継承への認識の違いが,日常的・情緒的援助と道具的・情緒的援助については,祖父母は孫に対して援助者であるという祖父母の立場が関係していると考えられる。

次に、ステップワイズによる重回帰分析を行った結果、孫を対象とした場合、孫から見た祖父母の存在受容($\beta=.36$, \wp .01)と時間的展望促進($\beta=.36$, \wp .01)の標準化偏回帰係数が有意であり、祖父母を対象とした場合では、孫から見た祖父母の時間的展望促進の標準化偏回帰係数が有意だった($\beta=.39$, \wp .01)。この結果から、孫の祖父母に対する関係満足度には祖父母の存在受容と時間的展望促進が,祖父母の孫に対する関係満足度には,孫の時間的展望促進が影響していることが分かった。以上より,仮説①は支持されなかったが,仮説②は支持された。仮説①が支持されなかったことには,以下のことが予測される。深瀬・岡本(2010)によると,世代継承性促進は直接的な責任を伴う「直接的世代継承性」と象徴的に残ることが基準である「祖父母的世代継承性」に二分されるという。孫-祖父母関係評価尺度の世代継承性促進は前者を対象としており、本調査では、「直接的世代継承性」については、少なくとも孫との関係において必ずしも正の影響を与えないことが分かった。(臨床死生学・老年行動学)